OPGE通信

東京学芸大学男女共同参画推進本部ニューズレター

Vol.7　2008年6月18日

男女共同参画推進本部 新体制でスタート

東京学芸大学男女共同参画推進本部（OPGE)は、新メンバーも加えて、2期目の活動をスタートいたしました。高橋道子本部長のもと、１）仕事と生活の両立支援　２）雇用面での男女共同参画の推進に向けての取り組み　を重点目標に、本部員一丸となって取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

山梨大学どんぐり保育園視察報告

2008年2月28日に、山梨大学医学部キャンパスにあるどんぐり保育園を視察しました。設計段階から保育専門の業者が携わったことにより随所に工夫の施された保育園となっており、また託児している保護者と学内PHSを通じていつでも連絡が可能なことなど、機能的な保育園でした。

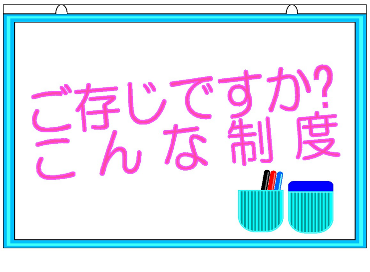
東京農工大学女性キャリア支援・開発センター訪問記

2008年3月11日に、キャンパス内に認証保育所の設置を検討中という東京農工大学の状況調査を目的として、『東京農工大学女性キャリア支援・開発センター』を訪問し、特任准教授の秋田カオリ先生から経緯を伺いました。

農工大では、①優秀な教職員（特に女性教職員）の確保と定着率の向上、②他大学へのインセンティブを目的として保育所の設置を検討しています。また、既存の保育所を認証保育所とし、その保育所に土地を無償貸与することで、大学教職員と地域住民双方からの豊かなニーズの確保及び経費の節減という、保育所設置における大きな課題が解決されることになります。こうした好条件の陰には、農工大の女性研究者及び学内保育所に対する学長以下経営陣の高い志がありました。「大学の一層の飛躍のためには女性の活動の場をさらに拡大することこそ肝要であり、積極的に女性研究者を雇用したい」、「大学も保育所ぐらいは持っていないと恥ずかしい」、そんな言葉が大学トップ陣から発せられているとのこと。

農工大の女性キャリア支援・開発センターは、文部科学省科学技術振興調整費『理系女性のエンパワーメントプログラム』の採択に基づいて設置され、キャリアパス支援、出産・育児・介護支援、卒業生支援ネットワーク、エンパワーメント環境整備の4つの活動を、主に行っています。活動経費で専任コーディネーター（特任准教授）、研究支援員（特任助手）、非常勤職員を雇用し、常勤職員をこのプロジェクトに専念させる人的体制がうまく機能しており、ＨＰも見やすく充実していて、学外へのアピールもしっかりできています。

必要なものに人とお金をかけることから生まれる豊かな発想力。そこに派生してやって来るチャンスを逃がさない決断と大きな結果。大いに学ばせていただきました。



「家族が病気になったとき～介護休業」

2週間以上の期間にわたり要介護状態にある家族（配偶者、父母、子、配偶者の父母など）を介護するため、介護休業をすることができます。期間は６カ月以内で、この期間内であれば、1回に限り延長ができます。

また、１日の勤務時間の一部（4時間以内）について勤務しない介護部分休業という制度もあります。

コラム

育児休業をとりました

教育実践研究支援センター
加藤直樹

昨年8月に長男が生まれ二児の父親になりました．このとき，母親の産休に合わせて育休を取る※ことに！配偶者出産休暇と男性のための育児休暇，そして夏季休暇と有給休暇を利用後，一か月の育児休業を取りました．

周りの人に育休のことを話すと様々に興味を示してくれたのですが，やはり「その間の仕事は？」「母親も休んでいるんでしょ？」などと否定的な方も多くいました．でも，生まれたばかりの子とずっと一緒に過ごす時間は何にも代え難いものでした．上の子のときにも夜の面倒は見ていたのですが，陽の下で一緒にするうたた寝はとても幸せな気持ちにしてくれました．また，一番つらい時期の母親の負担を多少なりとも減らすことができたかと思っています．

一方，育休中に困ったのが，研究費で出張ができないことでした．育休中の女性研究者も同じ悩みを話してくれました．子育てに専念する期間ではあるのですが，合間を見つけて研究を進め，重要な学会には参加しなければならないのが研究者です．収入が激減する中（これは育児休業を敬遠してしまう最大の要因でしょう），自腹での研究遂行は厳しいものがあります．この点の配慮が制度としてほしいところです．

最後に，私の誤解かもしれませんが，男女共同参画というと女性の社会進出に関することが目立っているような気がします．女性が社会に出やすくなるためには，男性が家庭のサポートをしやすくすることを忘れてはいけないはずです．また，次世代育成に加え，高齢者介護に目を向けた取り組みも重要であると思います．

※日本では，母親と同時に育休を取ることはできませんが，母親の産休中に父親は育休を取ることができます．

お知らせ

＊『2008年版男女共同参画白書』について

『2008年版東京学芸大学男女共同参画白書』が刊行されました。本部のホームページをご覧ください。

＊平成20年度OPGE助成が決定しました！

ご応募ありがとうございました。6件の応募に対し、OPGE助成事業に関する審査委員会の審査により、以下の3件の活動に対して助成が行われることになりました。詳しくはホームページをご覧下さい。

申請代表者	所属	活動題目	交付金額
浅見　優子	附属竹早小学校	子どもが作る「竹早小学校男女共同参画白書」	350,000円
大森　直樹	教育実践研究支援センター	「日本の社会で女性はどう生きてきたか」上映・パネル展示プロジェクト	200,000円
苫米地　伸	人文社会科学系	ジェンダーの視点からの教育をめぐる教員研修のあり方	250,000円

＊男女共同参画フォーラム：『平成19年度OPGE助成事業報告と2008年版男女共同参画白書報告』

日時　2008年7月23日(水) 15:00～17:00　　場所　東京学芸大学　N棟313教室
『平成19年度OPGE助成事業』と『2008年版東京学芸大学男女共同参画白書』についての報告会を行います。

＊『第5回21世紀成年者縦断調査』の概況

厚生労働省の『第5回21世紀成年者縦断調査』の結果が発表されました。20代、30代の男女の結婚、出産、就業等の実態や意識についての継続的な調査です。出産やその後の妻の就業継続と夫の家事・育児時間との関係、職場環境との関係など、興味深いデータが示されています。
(http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/seinen08/index.html)

〒184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1　東京学芸大学男女共同参画推進本部
●TEL/042-329-7108　●fax/042-329-7114　●E-mail/danjo@u-gakugei.ac.jp
●URL/http://www.u-gakugei.ac.jp/~danjo/

OPGE
Office of Promoting Gender Equality at Tokyo Gakugei Univ.